表3　疾患別のシナリオと経済的損失に関連する要素（疾病そのものの要素）との関係

No	疾病	仮定した対象	経済損失を推定するための疾患別シナリオ	発症要因：個人・内因性			発症要因：環境・外因性				予防		症状		精密検査		治療							病気の発症と推移					周囲への影響	
				遺伝的要素	発症年齢	性差	労働環境の影響	季節性	業務起因性	発症場所	発症予防	重症化予防	程度	出現頻度	手段・方法	頻度・回数	種類	頻度	期間	治療による副作用	薬による症状の変化	処方薬／OTC薬	入院の要否	急性発症	死亡率	慢性化の可能性	後遺障害	将来の合併症	2次感染	周囲からの介助、支援の要否
1	腰痛	40歳男性	症状がひどいときには業務を一時中断することがあるが、病院には通っていない。痛みが出た時に、市販の鎮痛薬を飲むか塗り薬を使うなどして対処している。仕事を休むことはない。	○	◎	○			◎	○	○	◎	◎	◎			◎	◎	◎	○		◎	○	○		◎	○			○
2	片頭痛	30歳女性	月に2-3回の頻度で片頭痛が起こり、勤務中に突然痛くなることがある。痛みは1度に長くて半日程度持続する。病院を受診し、処方薬を服用している。薬である程度の症状は緩和しており、仕事には大きな影響は出ていない。		◎	○					◎	○	◎	◎			◎	◎	◎	○		◎		○							○
3	風邪（感冒）	30歳女性	年に1-2回季節の変わり目に風邪をひく。大抵は仕事を休まずに市販薬で対処するが、症状がひどいときには病院へ行き、薬を処方してもらうことがある。風邪の引き始めは鼻炎と鼻水がひどく、全身倦怠感があり仕事での効率が上がらない。				○	◎		○		◎	◎	◎			◎	◎	◎			◎		○					◎	
4	虫歯（齲歯）	40歳男性	1ヶ月前に右下の第2大臼歯が痛み出し、症状がひどくて仕事に集中できなくなったため、2週間前に1日、近所の歯科クリニックを受診した。その後、現在まで週に1度（業務終了後）、受診している。今後、3ヵ月おきに定期的な通院を予定している。		◎						○	◎	◎	◎			◎	◎	◎			○		◎						
5	インフルエンザ	40歳男性	急な高熱と頭痛、咳の症状が出現し病院を受診した。検査キットでインフルエンザAと診断された。予防接種を受けていたが、病院で処方薬（抗インフルエンザ薬）をもらい、仕事を5日間休んだ。				○	○		○	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎		◎	◎		◎					◎	
6	妊娠合併症（妊娠中毒症）	30歳女性	初めての妊娠で、妊娠7か月頃より頭痛・めまい・耳鳴りが出現。軽度の妊娠中毒症と診断された。会社へは医師の指示書（診断書）を提出し、2週間に1回通院しながら自宅安静を保ち、自然分娩にて出産した。		◎	◎						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	○	◎						◎
7	花粉症	40歳男性	毎年春になると症状が2-3ヵ月出現する。病院は受診せず、症状は市販薬（内服薬と点眼薬）でコントロールしている。薬の副作用で、昼間の眠気が出てしまい、業務の効率は低下する。	◎	○			◎		◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎		○				
8	月経前症候群	30歳女性	月経前に頭痛や過剰な睡眠欲、集中力低下、抑うつ感が見られ、仕事の効率が著しく低下する。生理休暇を2か月に1度、平均2日程取得している。妊娠を希望しているため、低用量ピルは使用しておらず、治療は症状悪化時に少量の抗うつ薬・頭痛薬を服用している。		○	◎					○	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	○	◎				◎				◎
9	皮膚炎	30歳女性	業務終了後に手荒れが発生するようになった。職場で扱っている粉状の物質が手袋のすき間から入り込み皮膚炎を発症していると診断され、労災と認定された。現在は、2ヵ月毎に通院しながら、治療中である。				◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎		◎				
10	気管支喘息	30歳女性	幼少時より季節の変わり目や冬場に風邪をひくと、喘息の症状が悪化する。普段から吸入薬を服用しているが、症状がひどくなると職場には行けず、入院のため年間あたり10日程度、会社を休む。2ヵ月に1回、病院を受診している。	◎	◎		○			○	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎		◎		◎
11	うつ病	40歳男性	異動、昇進を契機に不眠傾向になり、うつ病の診断で6ヶ月の病気休職となった。復職後は内服を続けながら軽減業務にてリハビリを開始し、3ヵ月の就業制限が続いている。日勤業務であるが、業務量は休職前の半分程度で上司と同僚がサポートをしている。				◎	○	◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎				◎
12	睡眠時無呼吸症候群	40歳男性	昼間の時間に眠気を感じることは少ないものの、妻に夜間のいびきと無呼吸を指摘され病院を受診した。結果、重度の睡眠時無呼吸症候群と診断され、月1回の受診のうえ、CPAP療法を行っている。また、肥満に対する減量指導も受けている。			◎					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				◎	○	◎	◎		◎		◎
13	失明（糖尿病由来）	50歳男性	以前から糖尿病を指摘されていたが放置していた。1年前に急に目の前が曇る症状が出たため、病院を受診したところ糖尿病性の網膜症と診断された。その後、治療を続けたものの症状は改善せず、半年前に左の視力を失った。右目は若干の視野障害があるものの、視力は残存している。職場は交替勤務から日勤に異動した。		◎						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎		○	○	◎	◎		◎
14	人工透析（IgA腎症由来）	40歳男性	高校時代にIgA腎症を発症した。内服治療と蛋白・食塩の制限に取り組んできたが、約20年の経過を経て尿毒症を併発し、昨年から人工透析を行っている。病院には、週3回通っており、透析を行った日は昼から、他の日は朝から出務している。	◎	◎							◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	◎		◎	◎	◎	◎		◎
15	Ⅰ型糖尿病	30歳女性	17歳でⅠ型糖尿病を発症。それ以来、インスリン治療を行っている。現在は低血糖症状が週1-2回出現するが、対処できている。合併症については年1回検査をしているが、現在のところ出現していない。月に1回、土曜日もしくは就業時間後に通院している。		◎							◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	◎	◎		◎	○	◎		◎
16	高血圧	50歳男性	以前より健康診断で高血圧を指摘されている。自覚症状はなく仕事は通常通りこなしている。通院は月に1回で、降圧薬を朝1回、内服している。	◎	◎	◎			◎		◎	◎					◎	◎	◎			○			○	◎		◎		
17	急性心筋梗塞	60歳男性	2ヵ月の平均月間総労働時間が270時間を超えた翌月、自宅のトイレで倒れているのを家族に発見された。解剖の結果、原因は急性心筋梗塞と判明した。以前の健康診断では、軽度の高血圧と高脂血症が指摘されていたが、通院はしていなかった。		◎	◎			◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎		◎				◎
18	脳卒中（脳梗塞）	60歳男性	以前から不整脈を指摘されていた。半年前に脳梗塞を起こし、20日の入院、2ヵ月の自宅療養後会社に復職した。左の片麻痺が残ったため現場作業から事務部門へ異動し、現在は事務作業の手伝いを行っている。週2回、就業時間後にリハビリに通っている。		◎	◎		○	◎		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎		◎	◎		◎
19	乳がん	30歳女性	乳がんの診断で部分切除術の為1週間入院した。2週間の自宅療養後、職場復帰し就業しながら、3ヵ月の抗がん剤治療、2ヵ月の放射線療法を行っている。今後5年間のホルモン療法を予定している。若干の体調不良を感じるが業務に支障はない。内服は毎日続けている。	◎	◎	◎						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎		◎	◎	◎	◎		
20	大腸がん	50歳男性	直腸がんの為、開腹手術を行い、人工肛門（ストーマ）を付けた。3週間の入院後1か月で復職し、現在は基の職場で働いている。通院は半年に一回で薬は服用していない。	◎	◎						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎

○は関連が想定されるもの　◎は特に、本シナリオの記述内容と関連が想定されるもの